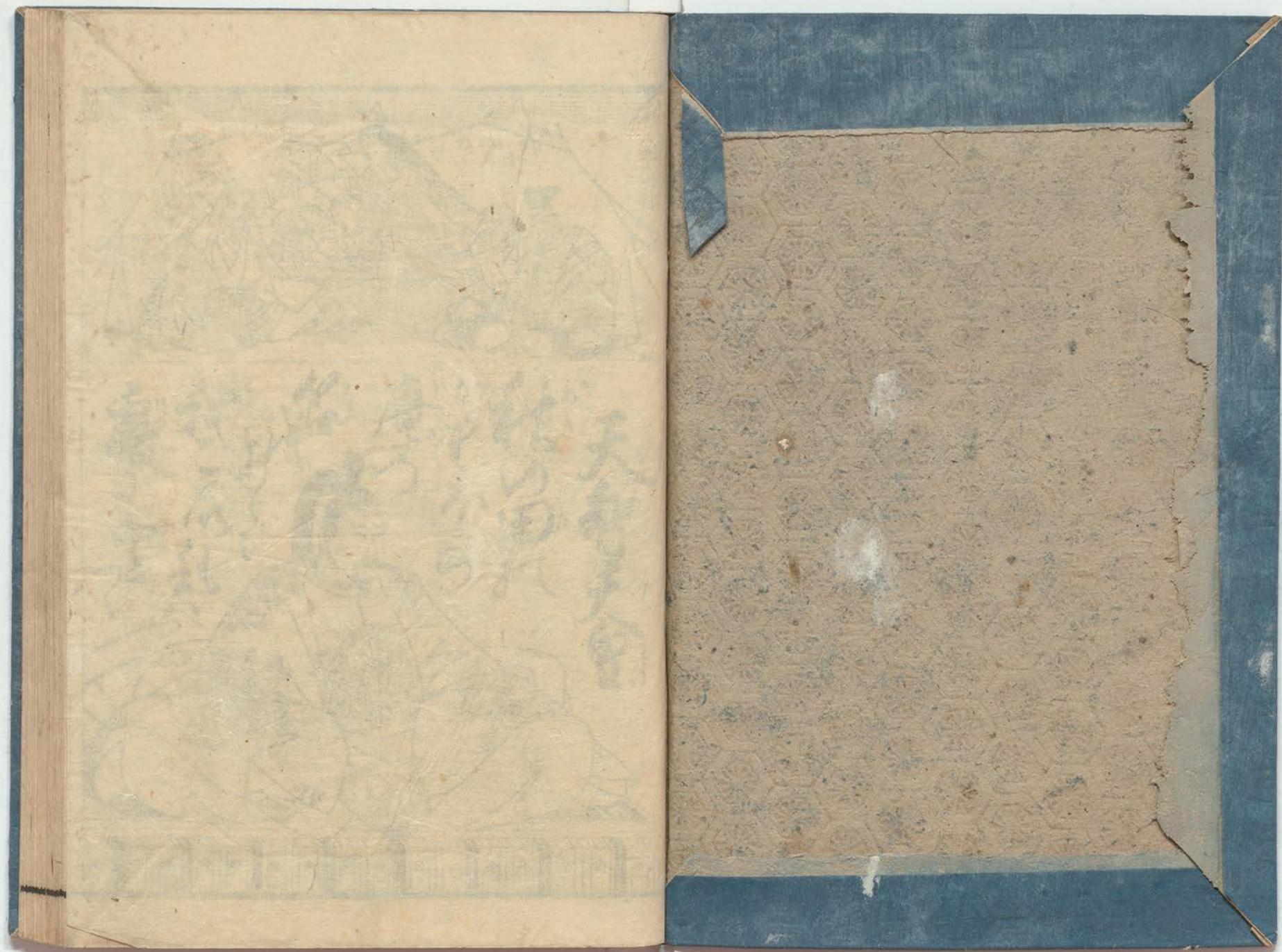


女割
艸方

たいへいひやくまん
泰平百人一首教鑑









持 統 天 皇

大 天 皇

衣 不 白 妙 の



柿 本 人 磨

山 崎 赤 人

尾 崎 赤 人

志 保 赤 人

な ぎ ふ

い ち ぢ ん も 福 人



虎
嘉祥法師
みよきを
やまを
柳橋
これぞ
おれ
おれ
おれ

右 紀友則
ゆきもとをけ
うらの
ゆき
左 友輔
ふきとく
ふきのあくなり

A portrait of a man, likely a noble or official, wearing a dark robe with wide sleeves and a white undergarment. He has a mustache and is seated, looking slightly to the right. The background is plain white.

右小舟小町
 徳めもは
 仙まに
 乙この
 強須さへ
 乃たあめあふ
 乙あへんてあへり

田子浦たごお出うちく

猿丸左吏

奥山小石集



右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠

右 中納言 藤原 公忠



中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠

中納言 藤原 公忠



若くはるの
ちきりとほぬ
わづらひ
つづける
た三條院女御を



右 藤原仲文
有明の月
ひりの
ささる
つづける
うけおくる



大寺に徳直
うきさる
ねも
つづける
うけおくる



右 壬生忠見
うきさる
かきつ
つづける
うけおくる



左 平盛
秋乃
つづける
うけおくる



右 中務
秋乃
つづける
うけおくる



僧遍昭
天津風
うきさる
つづける
うけおくる



陽成院
筑時根の
おつ
つづける
うけおくる



女文章目録

○初春のあみ

○同 延事

○上巳のあみ

○同 延事

○端午のあみ

○同 延事

○異言目録

河原たぐ

ふちれろ

ちろふ

ちろふ

ちろふ

ちろふ

ちろふ

ちろふ



我ちろふ

光孝天皇

君の光

君の光

君の光

君の光

君の光

君の光

君の光



我ちろふ

〇 同 延 事
 〇 セク乃あみ
 〇 同 延 事
 〇 申えのあみ
 〇 同 延 事
 〇 重陽乃あみ
 〇 同 延 事
 〇 同 延 事
 〇 同 延 事



〇 同 延 事
 〇 髪並のあみ
 〇 同 延 事
 〇 書部乃あみ
 〇 同 延 事
 〇 歳暮乃あみ
 〇 同 延 事
 〇 同 延 事



物まのふみ

新やめふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

藤原殿の相

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ



おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

おのゝふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ

白のふみ



二月二日

學人ト

あつて
 や
 耶ーさあはあ
 あんがう
 うまやーとあ
 んでう
 こころも
 うみりのおめ
 あつとくちか
 作のむけうも同
 んに
 さきり その現は
 中ふれいへい主
 現そあをあを
 とるうあもあ
 やうこさかん
 泉浮楼姫くはた

[illegible]

元良親王

倭わ奴な反

今

あふ

陽

あまのこ

七

素性温師 そ せい ぬし

今

心

ア

古月

穠

ありやけ
まご

侍出はる系



さき
とこ乃あみ

やみ
涙のあまうささ

み
月和とうきく

りて
目もあそんり

う
ういぬぬまはま

わ
わびり桃花一紙

い
あふさせま

み
い日井やたさ

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

あ
あふさせま

文
文屋康秀

吹
吹くふ秋の

草
草はの

志
志

ふ
ふ

む
むふ

あ
あ

あ
あ

大
大にふ

月
月

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

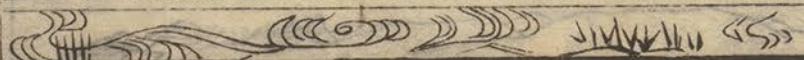


唐老人斡

同廷平

河

かきく



[illegible]

何れを以て今より
 愛するに連なり
 此れはひてふり勢
 こゝろをいふこと
 此れはかたがはと
 標百担を校する
 せん あか
 せん

六月

源家平朝臣

凡河内新順



A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire, holding a long staff or sword. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy characters. The man is depicted in a three-quarter view, wearing a dark, patterned robe with a wide collar and a light-colored undergarment. He has a mustache and is wearing a traditional Japanese headpiece. The calligraphy is in a highly stylized, cursive font, with large characters that appear to be 'や', 'お', 'し', 'の', 'き', 'の', 'う', 'さ'. The background is a light, textured surface.

あふさきそすいのや
異言の余み

ひさし
一筆のしきりせし

いふ
時分連あつてはう

いふ
おけりしうと海揚

いふ
お清りしうと古流

いふ
めしうとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
あふとんや

いふ
おけりしうと

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや

いふ
いふとんや



山玉まきもまき
 まきまきかんまき
 減り一あめのまき
 堪へくまは
 山やりぐままき
 山若松めまき
 まきのまき
 時のまき



山玉まきもまき
 まきまきかんまき
 減り一あめのまき
 堪へくまは
 山やりぐままき
 山若松めまき
 まきのまき
 時のまき



[illegible]

友方



卷之五



源氏物語

こゝに
とてのてりてふ

楊子山先生

厚々々々々々々々

依此爲の事なり

子思子

あつたうゝたひあつた
巨舟のふりやう

まゝに
うゐい

七ツク
おんろふ
あつちのうら

五ノ
三ノ

きよき

七

三ノ

とて

五

七月

清原深養父

夏あつ夜よ

香

あけ
わづらひ



雲のいつ

身居

ら
舞

久屋相康

志

月
の
略

夕

秋乃

六

つめ

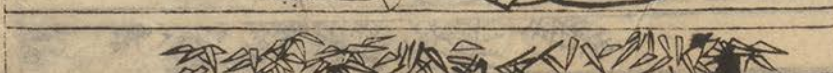
玉々々々



中えのふみ
 多るははたけふふ
 ちりりいふふ
 孫るふふにはあり
 くらふふふふふふ
 けふふふふふふ
 ふふふふふふふ
 ふふふふふふふ



藤末のふふふふ
 結ふ利ふふふふ
 一折ふふふふふ
 月ふふふふふ
 ふふふふふふふ
 ふふふふふふふ
 ふふふふふふふ
 ふふふふふふふ



[illegible]

かぢくはじりきこ
うけの存
あしむ市
金より有松東あぢ
北菓子新
文紙夕々あふ
花より
わ

九月にありあけ
 重陽の節にありあけ
 浪の音ありあけ
 ささくハ粟一袋の節に
 とわに添ひ自來海
 ともハ粟一袋の節に
 ちかきとわに添ひ自來海
 ちかきとわに添ひ自來海



中納言の節に
 送りの節に
 ちかきとわに添ひ自來海
 ちかきとわに添ひ自來海
 ちかきとわに添ひ自來海



何れも之の氣増ふ

金瓶梅



あふくやまな

子



あんなにきこえ
ゆるゆるのあ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ

あんなにきこえ



妹人の乳み

使のしるし

時の口達り

めくくありま

世及びおれ

世及びおれ

おれ及びおれ

式及びおれ

源重之

風をい

岩

浪

おの

く

お

お

お



大津に

舟

清

大

の

夜

の

物





水島みづきと志保
 あつせ
 とき世はゆるり
 びすめい さいぞん
 とくも娘事と縁
 ちよよ
 ねけりしとき秋
 ゆいふとあはれり
 結細滞りおきみ
 あんぞ
 安堵いそりけり
 いふ
 右ふふと流れて
 いふつらんせんまふひをも
 酒一滴もあらず

[illegible]

増後祿のあも
 一葉のりしとぬ
 清子夏夜はゆづれ
 首危くも懸け
 けし 鶯のえん
 山あそびの海
 あまのめいれは
 中夜 くらき



清ひま 藤林
 事 けし
 鯛一尾清酒を
 み末を
 束を
 さいせ
 口は納り





存心之要

人



三

也



此
 歸
 天
 下
 之
 尊

海
あめりか

入る人
 入る人
 入る人

あゝ有明

煥成之書
 煥成之書

水
井
調

一尾使てりまのり

卷之六

尊厳なりくは佛之尊
 尊厳なりくは佛之尊

とくしんく平履

羊山先生

事
二
木
一
子

ふくまんとあ

以終

まゝあり

一

小式部卿侍

大江戸

紙

A detail from a Japanese woodblock print, likely from the 'Ukiyo-e' series. It shows a person's head and shoulders in profile, facing right. The person is wearing a garment with a dark, patterned collar or headband. The background is light and textured, typical of woodblock printing. The style is characteristic of the Edo period.

あま

卷八

い
せの
子
伊豫大権

在

の

郭
養

八
主
機

乃乃

好
男



えんとうひ
安和悦のまみ

あわくきひり
あわくきひり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

せん
清少納言

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

せん
清少納言

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり

あまのり
あまのり



いふてゐる

万



相摸



名
名

あま僧行尊

ふけなまなり
めうかう
こまつかう
わ

取之而自足

和文書如左

いなりまん

めくく存心

おんすいひろ
おんさる

いゝ東廣井清翁

ひくろ
う

一物自掛之

電り義成ゆん

此藥之妙

成人との

香齋

推量以爲源

心奉ん乃て

さくをいふなり

同

あま僧行尊

子孫に
 傳へ
 せしめ
 る

新書

五

梅

花里

外子

志

前

固防固守

春の夜

牙や をり

三

子

系

也

名

月夜



たけのこ

子



7



見
くわき替わらん
ごやうらん
まのき酒一献
けああり後
とてとてとて
なすさくらん
その
そあゆみ
あら
はかりし

かんきと中し
まね見おのり

一巻のりあり

時分極意を意あ

これしきしきと

市隠居のほめ

何れもく極意え

此の極りある

かき見し事ある

華々しく候ふ

此の極りある

さくさくおのり

修成も其の

由た人々あり

わきまあり

わきまあり

わきまあり

良羅法師

淋しに宿る

世まは

つ

お

あ

あ

夕暮



大畑吉徳

夕暮れ門

田の

言ふ

松

あ

梅風

あ



同をす

おんきりきりきりきり

おののきききき

おはまきききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

蔵まのつみ

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき

おきききききき



悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり
 悔の心要なり



源俊賴朝臣
 うるさな
 山崎
 いれ

麻衣の錦織
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ
 年あまたくみ



命の
 秋も

わさくす

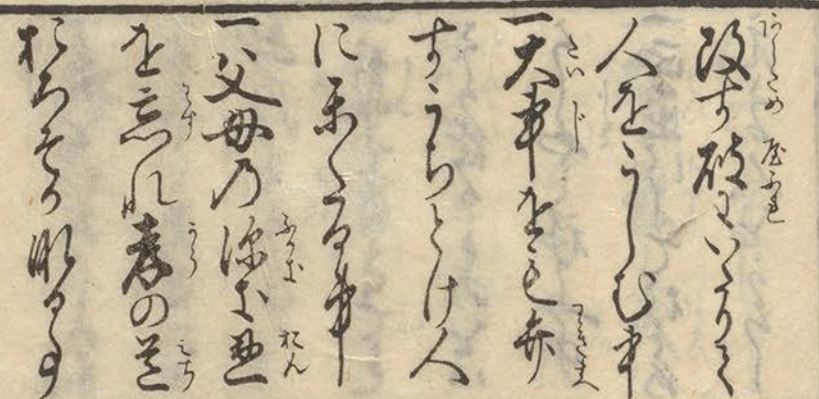
一



子



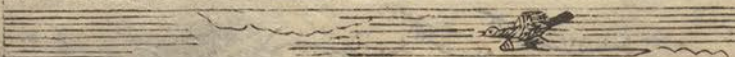
法に細く、多聞を
 修法、明く、心す、心
 世法、法、法、法、法
 猶、め、め、め、め、め
 言、く、く、く、く、く
 先、く、く、く、く、く
 月、日



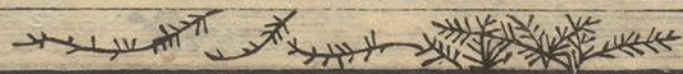
一丈のりめあ
 をまゝ天と
 一道のりめあ
 うるものさ
 うるものさ
 うるものさ
 一道のりめあ
 うるものさ



一丈のりめあ
 をまゝ天と
 一道のりめあ
 うるものさ
 うるものさ
 うるものさ
 一道のりめあ
 うるものさ



一人の身へ
 物をとらうもの
 一人の中を
 人の熱く
 をそのいじ
 一衣類を
 是を
 はん者なり



一人の身へ
 物をとらうもの
 一人の中を
 人の熱く
 をそのいじ
 一衣類を
 是を
 はん者なり



一我が派を
 す武にたり武を
 うそくもの
 一卜人の長と
 希すは是を
 あくうの
 一男姑よや
 して人のう



一男をうけ
 て他人の朝を
 うれ
 一男をうけ
 男とて親を
 一と親と
 一道をる人と



我々もつゝふもの
 とあるあやう
 一人来りし時
 今も昔も
 一七の年
 石乃糸々事
 今も昔も
 兄弟をもちて



あれはつゝふもの
 して毎事
 今も昔も
 一七の年
 石乃糸々事
 今も昔も
 兄弟をもちて



乃道より法は
 湯に浸る事
 地自然のたれ
 明り夫婦乃
 乃ち天のこ
 とくは是を
 天のやうや
 まいふはこれ



そめよりて地
 の乃よりさめ
 つとけはき
 んとてなう
 まのめをさる
 にちりりあり
 りめはき
 のはくや



とくふとる^ち
 たちすあを^{みつ}
 も者のうつろい
 あそひんは
 若魚のみによ^{あんりや いもと}
 ありといふ中一上
 しめきふて^{うた}
 りく家をねえいっ

[illegible]

如正一之申
 之好^{このじ}う^う口^{くち}傳^{でん}
 人^{ひと}乃^{なり}吉^{きち}吉^{きち}を
 知^しり^り好^{この}う^う口^{くち}傳^{でん}
 之^{この}人^{ひと}乃^{なり}親^{おや}
 之^{この}友^{とも}う^うを
 て^てう^う口^{くち}知^し
 う^う申^{しん}は^は好^{この}う^う

実ふらうしよ
 中らう家をこ
 今女はうき
 しくきだる
 半は、好と之
 竹より、あや
 人をうたりて
 あいささる



若ふらうしよ
 一しとらふ
 たり理をけ
 て、こもれ
 とつて、こも
 いた人さ
 何ういゝ人
 とあはる



みれいしけを
 うれなう
 にうあふ
 男にうめを
 やりうを
 ひささう
 ーひさ
 しと



まのまの
 女は
 有
 あり
 あり
 あり
 あり
 あり



ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ



ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ
 ちやうとねえ



乃弟本國主成

う海をあらう

しそふ全座

うめりけふ

たれものけふ

元来く

月日

順徳院

百敷や

新

増

あふ

あふ

む

あふ



赤志忠雅堂藏板

發行者

大阪市東區本町四丁目世一番邸

赤志忠七

和漢洋書籍販賣所

發兌所

赤志忠雅堂

大阪市心齋橋通本町四丁目
三十番屋敷

1001995455

書名 赤平町人前狀組
著者名 赤平志七
購入日 昭和11年6月7日
代價 60
神戸白雲堂
田野邊圖書票

赤平町人前狀組

幾代組

赤平町人前狀組

赤平町人前狀組

赤平町人前狀組

